

## 平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「薩摩天まちまつり」～鹿児島県の資源の発掘・発見～		
(2) 実施団体名	天文館中央地区商店街振興組合連合会(中振連)	(3) 対象地域	鹿児島県鹿児島市 いづろ・天文館地区
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	鹿児島市
(6) 実施した取組の内容	<b>取組①</b>	「地産地消食まつり」(楽しく元気なまちづくり)	
	実施主体	主たる実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)、連携する団体: ㈱山形屋、㈱三越鹿児島店	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	
		●実施内容: 鹿児島県下の各市町村の特産品フェア、関連イベント ●実施時期: 平成20年10月～12月の3ヵ月間 ●実施場所: 百貨店(山形屋、三越)や商店街の複数の空き店舗 ●取組の目的: 鹿児島県特産品を新たに発掘・発見し、特選品を選定、鹿児島の「食」を普及させる。空き店舗対策や地産地消、観光振興を推進するなど、南九州随一の商店街のにぎわい創出に寄与する。	●実施内容: 「地産地消食まつり」として鹿児島県下の食料品および工芸品をアンテナショップにて販売、来場者や周辺商店主に対するアンケートを実施 ●実施時期: 平成20年10月15日～12月14日(ショップにより実施時期は異なる) ●実施場所: 山形屋、三越、空き店舗2ヶ所、照国神社表参道 ●アンケート対象者: 来場者201名、周辺商店主199名 ●取組の結果: 県内39地区から集められた276種類の食材や、大島紬、薩摩焼等の工芸品が店頭に並べられた。アンケートに対し、来場者の56%が取組に対し「満足」「やや満足」と回答、周辺商店主の29%が「地域のにぎわい向上への効果あり」と回答するなど、一定の成果が得られた。アンテナショップの効果的な立地、賞味期限・産地からの配送時間等を勘案した商品構成、広報のさらなる充実等が課題として残った。 ●食の交流振興、地場産業振興、商店街活性化、取組③と連携した観光振興等、複合性を備えた取組が実現し、同時開催による相乗効果を発揮した。
	<b>取組②</b>	「環境交通まつり」(人にやさしい、自然にやさしいまちづくり)	
	実施主体	主たる実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)、連携する団体: 福岡大学	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	
		●実施内容: 観光資源ともなっている市営電車の一時的な料金ワンコイン化による社会実験、来街者数調査 ●実施時期: 平成20年10月～12月の間で3日間実施 ●実施場所: いづろ・天文館地区 ●取組の目的: 公共交通機関の活用促進や利用者によるカーボンオフセットを推進し、環境配慮型社会の実現に向けた啓発を市民に対して図る。	●実施内容: 「環境交通まつり」として市営電車料金のワンコイン化社会実験を実施予定。回遊行動、通行量調査は実施済 ●実施時期: 「環境交通まつり」は平成21年2月14,15日に実施予定。回遊行動、通行量調査は平成20年10月4,5日に実施済 ●実施場所: 天文館地区の上下6電停の範囲の料金を100円(現行160円)とする ●取組の結果: 公共交通機関の活用促進による商店街のにぎわい向上、「環境交通まつり」のPRを通じた環境配慮型ライフスタイルへの意識転換等の効果が想定できる。
	<b>取組③</b>	「薩摩文化夜神楽まつり」(歴史と文化をもっているまちづくり)	
実施主体	主たる実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		
	●実施内容: 照国境内で奉納神楽および関連イベント ●実施時期: 平成20年10月～12月の間で特定の1日間 ●実施場所: 照国神社 ●取組の目的: 鹿児島県下で最も多い参拝者を誇る照国神社と連携し、歴史と文化の面から地域資源を発掘、観光振興を図る。また、歩行者天国や商店街イベントを同時に開催し中心市街地活性化に資する取組とする。	●実施内容: 「薩摩文化 夜神楽」として県内の神楽舞や薩摩琵琶を披露、取組①の出店、来場者や周辺商店主に対するアンケートを実施。 ●実施時期: 平成20年11月1日16:00～21:00 ●実施場所: 照国神社境内、照国通り一部を歩行者天国 ●アンケート対象者: 来場者201名、周辺商店主199名 ●取組の結果: 来場者は5000名(主催者が把握した概数)を数え、アンケートでは来場者の82%が取組に対し「満足」「やや満足」と回答、「薩摩文化への関心が高まった」「毎年続けてほしい」との声も多く寄せられるなど、大きなインパクトのあるイベントとなった。また、準備作業を通じてイベント運営や実行体制の組織化等のノウハウを獲得した。イベントの効果的なPRや、周辺商店街への波及効果を創り出すことが今後の課題である。 ●今年度は観覧無料としたが、次年度以降は有料化等を検討し、持続性のあるイベントとする。	

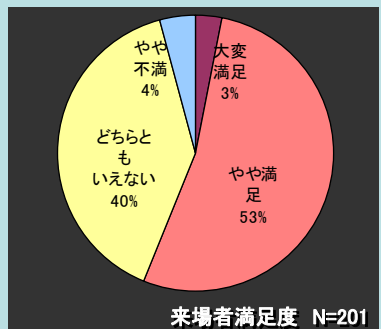
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点
	<p>下記組織の連携により、各取組を実施          なお、中振達は法人格のないWe Love 天文館協議会の枢要な構成員としての位置づけである。</p> <p>○We Love 天文館協議会(中振連)(主担当:取組①、②、③)          ○(株)山形屋(担当:取組①)          ○(株)三越鹿児島店(担当:取組①)          ○福岡大学(担当:取組②に関連した交通調査の実施)          ○日建設計総合研究所(担当:効果の分析、報告書のとりまとめ等)          ○株式会社都市総合プランニング(担当:事業全体に関する連絡、調整)</p>		<p>●各取組ともWe Love 天文館協議会(中振連)が、様々な組織との連携を図りつつ、実施主体として中心的な役割を果たし、取組①③は予定通り実施することができた。ALL天文館というべきWe Love 天文館協議会の主体的な取組は、地域自らが魅力的な環境を創造していくエリアマネジメント的な手法であり、まちづくりにおける先導性・モデル性を有していると考えられる。</p> <p>●取組①:「地産地消費まつり」の懸案事項であった特選品の選定・仕入れについては、鹿児島県特産品協会、(株)城山ストア、(株)山形屋、(株)三越鹿児島店が担当し、ヴァリエーションに富む商品構成の実現が可能となった。</p> <p>●取組②:「環境交通まつり」は、鹿児島市交通局等との連携により実施。料金精算のソフト開発に時間がかかり、当初案より実施が遅れた。</p> <p>●取組③:「薩摩文化 夜神楽」は、照国神社との連携のもと、周辺住民・事業者・関係当局との折衝等はスムーズに進んだ。また、MBCテレビの協力を得て大型ビジョン中継や特番放送がなされた。手探りで進められた準備作業は大変手間がかかったが、次年度以降は獲得したノウハウを活かし、役割分担の明確化などにより効率的に進めていく。</p>
(8)取組により得られた成果	○成果1→	鹿児島島の資源の認知度向上	
		H19	H20(当初予定していた目標)
	データなし		「地産地消費まつり」「薩摩文化 夜神楽」の来場者に対するアンケート調査により、活用した鹿児島島の資源の認知度向上や、イベントのインパクト等を把握
	H20(実際に得られた成果)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組①、取組③に関するアンケートは、計599名からの回答を収集。「特産品を新たに発見した」15%、「地産地消費まつりに満足」56%、「地域のにぎわい向上に寄与」29%、「薩摩文化 夜神楽に満足」82%、「鹿児島島の文化への関心が高まった」77%等、鹿児島島の資源の認知度向上に一定の成果が見られた。</li> <li>MBC、KKB、KTS各テレビ局での特集番組、南日本新聞(計5回)、朝日新聞鹿児島版の記事等多数のメディアに露出し、鹿児島島の資源の認知度向上に寄与した。</li> <li>アンテナショップの常設化、夜神楽の伝統化を望む声が多く寄せられ、取組の継続に対する期待が高まった。</li> <li>取組①と③を同時開催することにより、鹿児島島の特産品を多くの夜神楽来場者にアピールすることができた。</li> <li>取組①、③の準備や運営を通じてオペレーションや実行体制の組織化等のノウハウを獲得した。</li> </ul>		
○成果2→	まちなかのにぎわいと回遊性の向上		
	H19	H20(当初予定していた目標)	
いつろ・天文館地区の中心商店街33地点の1日あたりの総入込み来街者数 平成19年9月29日調査 63,850人		総入込み来街者数を計測	
H20(実際に得られた成果)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の総入込み来街者数は、現在集計中である。地区内の回遊行動の特性など、取組の改善に向けた基礎資料として活用する。</li> <li>取組②は、「環境交通まつり」における市営電車の利用者数の把握により効果を測定する予定。</li> <li>取組③の来場者は5000名(主催者が把握した概数)を数え、アンケート回答した来場者の38%が、飲食や買い物目的等で天文館地区に立ち寄るなど、中心市街地のにぎわい形成に向け大きなインパクトを与えるイベントとなった。</li> <li>取組①では、1階部分の空き店舗率34%の通り(地区全体では8%)の空き店舗を活用するなど、空き店舗対策により通りの雰囲気を変え、中心市街地活性化に資する足がかりとなった。</li> </ul>			

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組①③は、アンケートにより一定の評価を得たため、中心市街地の商店街活性化という目標に向けて、さらなるヴァージョンアップを加えて継続実施を目指す。また、取組②は、まちなかのにぎわい形成や環境配慮型都市への転換に効果が期待できることから、公共交通機関の一部ワンコイン方式の事業化に向けた検討を行う。</li> <li>・取組①は、属性別回遊行動特性を視野に入れ、ターゲットを明確にしたアンテナショップの立地検討、旬や賞味期限、産地からの配送時間といったロジスティクス改善による品揃えの充実、料理教室の開催等関連イベント実施による相乗効果の発揮、効果的なPR、等が課題である。</li> <li>・取組③は、イス席の確保や舞台の視認性向上、モニターの大型化等会場設営の改善、計画的な周知やインターネット等の活用による効果的な広報、チケットの販路等を含めた観覧有料化の検討、周辺商店街でのイベント同時開催による波及効果の拡大、歴史や文化的背景の解説の充実、各組織の役割分担の明確化による効率的な準備作業、等が課題である。</li> <li>・取組②では、取組①③との同時開催によるまちなかの回遊性の向上、市内バスとの連携によるインパクトの拡大、ライフスタイルを提案する広報の工夫、等が課題である。</li> </ul>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1. 本格導入に向けた具体的な検討、関係機関との調整(H21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地産地消食まつり」の本格的事業化に向けた商品企画</li> <li>・空き店舗を活用したアンテナショップの事業スキーム構築、アンテナショップに出店する各市町村との調整</li> <li>・「薩摩文化 夜神楽」の伝統化に向けた組織づくり</li> <li>・バス会社や市交通局との調整による交通環境の整備方を検討</li> </ul> <p>2. 本格的な事業展開①「地産地消食まつり」(H22～25年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施地域 : いろろ・天文館地区</li> <li>・実施期間 : 恒常的に実施する。フェアは10～12月に開催する</li> <li>・実施内容 : 百貨店やアンテナショップにおける鹿児島特産品の宣伝販売</li> </ul> <p>3. 本格的な事業展開②「薩摩文化 夜神楽」(H22～25年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施地域 : いろろ・天文館地区</li> <li>・実施期間 : 10～12月の特定の1日間</li> <li>・実施内容 : 照国神社境内での奉納神楽および関連イベント</li> </ul> <p>4. 公共交通機関の一部ワンコイン方式の事業化(H22～25年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地に来街しやすい交通環境の整備方を検討</li> </ul>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>1. 「地産地消食まつり」「薩摩文化 夜神楽」の本格導入に向けた具体的な検討、関係機関との調整(H21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)。今年度獲得したイベント運営や実行体制の組織化等のノウハウを活用して今後の活動を展開する。</li> <li>・「地産地消食まつり」は、県市の関連部局や県特産品協会等と連携をとり、鹿児島特産品の精査、より効果的な販売・宣伝方法の検討を行う。また、県下の各市町村が合同で空き店舗を借り受け、独自に出店できる仕組みを構築し、アンテナショップの事業化を推進する。</li> <li>・「薩摩文化 夜神楽」の企画・PR方法・実施体制を精査するとともに、商店街活性化につながるタイアップ企画との連携を図り、毎年開催するための組織構築を図る。</li> </ul> <p>[活用を希望する制度: 鹿児島市中心市街地活性化基本計画に位置づけられた「街なか空き店舗活用事業」(まちづくり交付金)、「商店街一店逸品運動推進事業」(市単独費)、「頑張る商店街支援事業」(市補助金)等と連携]</p> <p>2. 「地産地消食まつり」の継続実施(H21～25年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)、(株)城山ストア、(株)山形屋</li> <li>・実施期間 : H21年度は10～12月に開催。H22年度以降は恒常的に実施する。</li> <li>・実施内容 : 百貨店やアンテナショップにおける鹿児島特産品の宣伝販売</li> </ul> <p>[活用を希望する制度: 売上からの自主財源に加え、上記平成21年度の取組について地方の元気再生事業の継続実施を希望(想定金額800万円)]</p> <p>3. 「薩摩文化 夜神楽」の継続実施(H21～25年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)</li> <li>・実施期間 : 10～12月の特定の1日間</li> <li>・実施内容 : 照国神社境内での奉納神楽および商店街活性化に資する関連イベント</li> </ul> <p>[活用を希望する制度: チケット売上からの自主財源に加え、上記平成21年度の取組について地方の元気再生事業の継続実施を希望(想定金額500万円)]</p> <p>4. 公共交通機関の一部ワンコイン方式の事業化の検討(H21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)</li> <li>・実施内容 : 「環境交通まつり」の調査結果や、今年度開発した料金精算システムの運用結果を踏まえ、バス会社や市交通局等関係機関と調整し、より中心市街地に来街しやすい交通環境の整備方を検討する。また、鹿児島市中心市街地活性化基本計画に位置づけられた「バリアフリー天文館開催事業」や「レンタサイクル・タウンモビリティ事業」との連携も検討する。</li> </ul> <p>[活用を希望する制度: 上記平成21年度の取組について地方の元気再生事業の継続実施を希望(想定金額400万円)]</p>

◆主な実施取組の内容◆

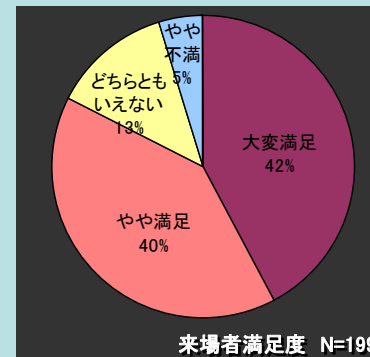
取組①:「地産地消食まつり」

- 実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)、  
(株)城山ストア、(株)山形屋、(株)三越鹿児島店
- 実施内容: 県下の食料品および工芸品を2ヶ月間にわたり、空き店舗を活用したアンテナショップ2ヶ所や、百貨店2ヶ所(山形屋、三越)にて販売。
- 実施結果: 県内39地区から集められた276種類の食材や、大島紬、薩摩焼等の工芸品が店頭に並べられた。アンケートに対し、来場者の56%が取組に対し「満足」「やや満足」と回答、周辺商店主の29%が「地域のにぎわい向上への効果あり」と回答するなど、一定の成果が得られた。



取組③:「薩摩文化夜神楽まつり」

- 実施主体: We Love 天文館協議会(中振連)
- 実施内容: 11月1日、「薩摩文化 夜神楽」として県内の神楽舞や薩摩琵琶を照国神社境内にて披露、「地産地消食まつり」も併せて出店した。
- 実施結果: 来場者は5000名(主催者が把握した概数)を数え、アンケートでは来場者の82%が取組に対し「満足」「やや満足」と回答、「薩摩文化への関心が高まった」「毎年続けてほしい」との声も多く寄せられた。アンケート回答者の38%が、飲食や買い物等で天文館地区に立ち寄るなど、中心市街地のにぎわい形成に向け大きなインパクトを与えた。



取組②:「環境交通まつり」

- 実施内容: 市営電車料金のワンコイン化社会実験を実施予定。
- 実施時期: 「環境交通まつり」は平成21年2月14,15日に実施予定。回遊行動、通行量調査は平成20年10月4,5日に実施済。
- 実施場所: 天文館地区の上下6電停の範囲の料金を100円とする。
- 公共交通機関の活用促進による商店街のにぎわい向上、広報を通じた環境配慮型ライフスタイルへの意識転換等の効果が想定できる。

◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ・取組①「地産地消食まつり」、取組③「薩摩文化 夜神楽」は、アンケートにより一定の評価を得るとともに、今年度獲得したイベント運営や実行体制の組織化等のノウハウを活かし、中心市街地の商店街活性化に向けさらなるヴァージョンアップを加えて継続実施を目指す。また、取組②「環境交通まつり」は、まちなかのにぎわい形成や環境配慮型都市への転換に効果が期待できることから、公共交通機関の一部ワンコイン化方式の事業化に向けた検討を行う。
- ・「地産地消食まつり」は、県市の関連部局や県特産品協会等と連携をとり、鹿児島特選品の精査、より効果的な販売・宣伝方法の検討を行う。また、県下の各市町村が合同で空き店舗を借り受け、独自に出店できる仕組みを構築し、アンテナショップの事業化・恒常化を推進する。
- ・「薩摩文化 夜神楽」の企画・PR方法・実施体制を精査するとともに、商店街活性化につながるタイアップ企画との連携を図り、毎年開催するための体制づくりを推進する。